

新型コロナウイルス肺炎の漏斗胸手術への影響について

現在（2020年4月13日）、新型コロナウイルスによる本邦における感染者数は増加を続けています。こうした中で今後、手術を検討されている患者さんから「果たして手術を行っても大丈夫であるか」という問い合わせをしばしば受けます。

室長は基本的には、**感染の蔓延が沈静化するまでは、手術は延期した方が良く**と考えます。そこで次のような提言をさせていただきます。

1. 感染拡大地域に居住されている患者さんは、仮に感染の可能性が少なく、現段階でなんら症状がなくとも、手術は延期すべきである。

2. 感染者が比較的少ない地域に居住されている患者さんも、なるべく手術は延期した方が良く。仮に手術を行う場合、術前2週間は他者との接触はしっかり避ける。

これは以下のような理由によります。

漏斗胸の手術においては直接に肺に対して操作を行うわけではありません。ですが胸郭の形が修正されるのに伴い、呼吸のパターンも一時的に変わります。このため、手術後に痰が切れにくい状態が2～3週間続くことがあります。ただ呼吸ができないわけではないので、通常の下にあってはあまり問題になりません。咳をすると響く、などの症状はありますが、鎮痛剤でコントロールが可能です。

しかし現在のような状況にあって、漏斗胸手術のリハビリ期（手術2～3週間）に新型コロナウイルスに接触して肺炎を発症してしまうと、（痰の排出ができずに）重篤化する怖れがあります。

感染拡大地域に居住されている方の場合、術後に症状が出る可能性が懸念されます。

癌の手術などは進行を考慮すると1～2か月以内には行うことが必要です。ですが漏斗胸の手術は半年～1年待機したとしても問題なく行えます。ゆえに手術の性質と、肺炎に罹患した場合のリスクを考えると、基本的には延期した方が良いでしょう。

ただしあくまでもこれらは現在（2020年4月13日）の状況に基づく判断であり、今後、適宜、変更してゆきます。

2020年4月13日

香川大学医学部形成外科・漏斗胸専門サイト「胸のかたち」研究室